

第5回 中国共産党の「合作共赢」:21世紀国際関係のあり方に関する思想的提起 ー梨の木ピース・アカデミーー

(概要) 習近平・中国共産党の外交思想の根幹を占める「合作共赢(ウイン・ウイン)」。ゼロ・サムのパワー・ポリティクス思想に凝り固まった「西側」諸国は“中国の宣伝外交の一環”としか受け止めないが、21世紀国際環境の特徴を踏まえた中国共産党は大真面目である。かねてから、“平和憲法に立脚する日本外交が目指すべきは脱パワー・ポリティクスでなければならない”と主張してきた私は、「合作共赢」思想に全面的に共鳴する。「合作共赢」思想の画時代的意義を考える。

1. 「習近平外交思想」

「習近平外交思想」という表現は、2018年6月22日-23日に開催された中央外事工作会議の総括を行った楊潔篪(政治局委員、中央外事工作委員会主任)が、この会議の「最重要成果は習近平外交思想の指導的地位を確立したことであり」と述べた中で最初に現れました。その定義・中心的含意は、「習近平新時代中国特許主義思想の重要な構成部分、習近平を核心とする党中央の治国理政思想の外交領域における重要な理論的成果、新時代における中国対外工作における根本的な拠り所及び行動指針(楊潔篪)ということです。

この楊潔篪発言が行われた中央外事工作会議で、習近平が重要講話を行い、18回党大会以来の中国外交の実践と成果を踏まえ、「対外工作は、国内及び国際の二つの大局を統括することを堅持し、戦略的自信を堅持するとともに戦略的定力を保持し、外交理論の推進と創新の実践とを堅持し、戦略的計画とグローバルな配置を堅持し、国家の核心的及び重大な利益の防衛を堅持し、合作共赢と義利相兼を堅持し、底線思维と風険意識を堅持すべきである」と強調した上で、①新時代の外交思想を「10の堅持」にまとめ、②国際情勢を把握する上での「歴史観、大局観、役割観」の重要性を指摘し、③対外工作の統括的企画推進における「4つのダブル必要」を提起し、④今後の外交工作重点として「6つの分野」を提出しました。

<外交思想:「10の堅持」>

18回党大会以来、中国と世界の発展の大勢を把握し、対外工作で一連の理論的実践的創新を行うことで、次の10の外交思想を形成した。

- * 党の対外工作における集中統一領導
- * (中華民族復興實現を使命とする)中国の特色ある大国外交の推進
- * (世界平和擁護と共同發展促進を目的とする)人類運命共同体構築の推進
- * (中国の特色ある社会主義を根本とする)戦略的自信の増強
- * (共商共建共享を原則とする)「一帯一路」建設の推進
- * (相互尊重、合作共赢を基礎とする)平和的発展の道を歩むこと
- * (外交的配置の深化を拠り所とする)グローバル・パートナーシップの構築
- * (公平正義を理念とする)グローバル・ガバナンス・システム改革の牽引
- * (国家の核心的利益をボトムラインとする)国家の主権・安全・發展利益の擁護
- * (対外工作の優良な伝統と時代の特徴を結合させることを方向とする)独特な外交風格の形成

<国際情勢把握:「歴史観、大局観、役割観」>

国際情勢を把握するためには、正しい歴史観、大局観及び役割観を樹立する必要がある。

- * 歴史観:現在の国際情勢を見るだけでなく、歴史望遠鏡を通して、歴史的法則を総括し、未来を展望し、歴史前進の大勢を把握すること。
- * 大局観:現象と些末を見るだけでなく、本質及び全局を把握し、主要矛盾と矛盾の主要面を把握し、多種多様で千変万化の国際現象の中で方向を迷い、本末転倒に陥ることを回避すること。

- * 役割観: 様々な国際現象を冷静に分析するだけでなく、自らをその中に置き、我が国と世界との関係において問題を眺め、世界のパラダイムの変化の中における我が国の地位と役割を明確にし、我が国の対外方針・政策を科学的に制定すること。

<対外工作の統括的企画:「4つのダブル必要」>

19 回党大会から 20 回党大会に至る、「2 つの 100 年」奮闘目標(浅井:2021 年の建党 100 年までに小康社会全面建設;2049 年の建国 100 年までに富強民主文明と和諧的社會主義現代化の国家を建設し、中国人民と中華民族の幸せな未来を獲得—中華民族復興のチャイナ・ドリーム実現—)実現の歴史的な交叉期は、中華民族復興の歴史的プロセスの中でも特別に重要な意義を備えている。人類史を通観すれば、世界の発展はすべて様々な矛盾があい交錯し、相互に作用し合った総合的結果である。したがって、世界の転換過渡期にある国際情勢の発展変化の規則性を深く分析し、歴史交叉期における我が国の外部環境の基本的特徴を精確に把握し、対外工作を統括的に企画し、推進する必要がある。

- * 世界多極化が規則的に進展している大勢を把握する必要があるとともに、大国関係が調整の度合いを深めていることをも重視する必要がある。
- * 経済のグローバル化が引き続き発展している大勢を把握する必要があるとともに、世界経済のパラダイムが変化を強めている動向をも重視する必要がある。
- * 国際環境が総体として安定している大勢を把握する必要があるとともに、国際安全環境が錯綜した複雑な挑戦に直面している局面をも重視する必要がある。
- * 様々な文明が交流参考し合う大勢を把握する必要があるとともに、異なる思想文化が互いに激しくぶつかり合う現実を重視する必要がある。

<外交工作重点:「6つの分野」>

対外工作は党中央の統一的計画に基づき、計画的配置を強め、工作重点を突出させてやり遂げる必要がある。今後 5 年においては、第一の 100 年の奮闘目標を実現するとともに、第二の 100 年の奮闘目標の取り組みを開始する必要がある、それらの中において一連の重要な時間的節目と活動とが含まれている。対外工作に当たってはこれらのことを座標とし、全般を考慮しつつ順を追って推進し、全体的に配置するとともに重点を突出させ、数多く事業を展開するとともに重点的に力を投入し、総合的積極的な効果を発揮する必要がある。

- * 人類運命共同体の旗を高く掲げて、グローバル・ガバナンス・システムをより公正かつ合理的な方向に向けた発展を推進する。
- * 共商共建共享を堅持し、「一帯一路」の建設を推進して、対外開放を新しい高みに引き上げる。
- * 大国関係を謀りめぐらし、総体安定、均衡発展の大国関係という枠組みの構築を推進する。
- * 周辺外交工作をしっかりと行い、より友好的、より有利な周辺環境を推進する。
- * 発展途上国との団結合作を深め、携手共進、共同発展の新局面の形成を推進する。 発展途上国は我が国の国際関係における天然の同盟軍であり、正しい義利観を堅持して途上国の団結合作という大仕事をしっかりと行う必要がある。
- * 中国と世界との交流深化、互学互鑒を本格的に推進する。

<習近平外交思想の展開>

○ 周辺外交座談会(2013 年 10 月 24 日—25 日)

- * 主要任務:「経験を総括し、情勢を判断し、思想を統一し、今後 5 年ないし 10 年の周辺外交工作の戦略目標、基本方針、総体配置を確定し、周辺外交が直面する重大問題を解決する具体的考え方と実施方案を明らかにすること」
- * アプローチ:「立体的、多元的、時空を越えた視角」
- * 戦略目標

- **「2つの100年」奮闘目標及び中華民族復興の実現に資すること。
- **周辺国家との関係を全面的に発展すること。
- **善隣友好を強固にすること。
- **互利合作を深めること。
- **国家発展の戦略的に恵まれた時期を擁護し、活用すること。
- **国家の主権、安全、発展利益を擁護すること。
- **周辺と中国との政治関係がさらに友好的となり、経済的紐帯がさらに堅固になり、安全合作がさらに深まり、人文連携がさらに緊密になるように努力すること。
- * **基本方針**:「与隣為善と以隣為伴を堅持し、善隣、安隣、富隣を堅持し、親・誠・恵・容の理念を突出体現すること」。周辺国家と善隣友好関係を発展させることは中国周辺外交の一貫した方針である。
 - **善隣友好・守望相助を堅持し、平等・感情を重視し、人心を得て人心を温めることを心がけ、周辺国家が中国に対して友善・親近・賛同・支持を増すようにすることで、親和力・感化力・影響力を増大すること。
 - **周辺国家に誠心誠意で対応することによってより多くの友人とパートナーを獲得すること。
 - **互恵互利の原則に基づいて周辺国家と合作を展開し、より緊密な共同利益のネットワークを組織し、双方の利益融合をより高いレベルに引き上げ、周辺国家が中国の発展から利益を得るようにすることにより、中国も周辺国家と共同発展する中から利益と助力を獲得すること。
 - **包容の思想を唱導し、アジア太平洋は皆が共同発展することを受け入れるだけの大きさがあることを強調することにより、より開放的な胸襟とより積極的な態度で地域の合作を促進すること。
 - **以上の理念について我々自身が率先垂範し、地域の国々が遵守し、堅持する共同理念・行動準則にすること。
- * **工作重点**: 新情勢下で周辺外交工作を行うに当たっては、戦略的に問題を分析、処理し、全局統御・企画統括・実施操作の能力を高め、周辺外交を全面的に推進する必要がある。周辺の平和安定の大局を維持することに力を入れる必要がある。平和的発展の道を進むことは、時代の発展の潮流及び我が国の根本的利益に基づいて我が党が行った戦略的選択であり、周辺の平和と安定を擁護することは周辺外交における重要目標である。
 - **互利共贏のパラダイムを深化させることに力を入れること。経済、貿易、科学技術、金融等の分野の資源を統括し、比較優位を利用し、周辺国家との互利合作を深める戦略的交叉点を見極め、地域経済合作に積極的に参与する。
 - ***関係国と共同で努力し、インフラの互聯互通を速め、一帯一路を建設する。
 - ***周辺を基礎として自由貿易区戦略の実施を速め、貿易・投資の合作空間を拡大し、地域経済一体化の新パラダイムを構築する。
 - ***国境沿いの地域の開放を速め、国境沿い省・自治区と周辺諸国との互利合作を深める。
 - **地域の安全合作の推進に力を入れること。我が国と周辺諸国は隣接しており、安全合作は共通の必要である。互信・互利・平等・協力の新安全観を堅持し、全面安全・共同安全・合作安全の理念を唱導し、周辺諸国との安全合作を推進し、地域の安全合作に積極的に参与し、関連する合作メカニズムを深化させ、戦略的相互信頼を増進する。
 - **周辺国に対する宣伝工作・公共外交・民間外交・人文交流を強めることに力を入れ、我が国と周辺国との関係の発展のための社会的民意的基礎を強固にすること。関係が親しいか否かのカギは民心にある。
 - ***全方位で人文交流を推進し、旅遊・科学教育・地方合作等の友好交流を深く繰り広げ、朋友と広く交わり、善縁を広く結ぶ。
 - ***対外的に我が国の内外方針政策を紹介し、中国の物語を語り、中国の声を伝え、チャイナ・ドリームと周辺各国の人民の豊かな生活を送る願望、地域の発展の未来とを連結することにより、運命共同体意識が周辺国に根を下ろすように努める。
- * 対外工作担当者が備えるべき心構え
 - **外交工作を行うに当たっては、国内及び国際の2つの大局を胸中に備えるべきである。
 - ***国内的大局とは、「2つの100年」奮闘目標であり、中華民族復興というチャイナ・ドリームを实

現すること。

- ***国際的大局とは、我が国の改革発展安定のための良好な外部条件を獲得し、国家主権・安全・発展利益を擁護し、世界の平和と安定を擁護し、共同发展を促進すること。
- **利益の共通点と交叉点を探し出し、正しい義利観を堅持し、原則を持ち、情義を語り、道義を説き、途上国に対して力が及ぶ限りの援助を提供するべきである。
- **外交工作の改革と創新を推進し、外交活動の企画設計を強化し、最大の効果を得るように努力するべきである。
- **外交工作の統一的計画と各面への配慮を行い、様々な方面を組織し、協調させ、それぞれの優位性を発揮することに注意し、外交工作をさらに巧みに行うべきである。

○中央外事工作会议(2014年11月28日-29日)

- * 主要任務:「国際情勢及び外部環境の変化を全面的に分析し、新情勢下の対外工作の指導思想、基本原則、戦略目標、主要任務を明確にし、対外工作の新局面を開拓創造すること」
- * 国際情勢及び外部環境:「世界の発展の大勢を認識することは重要な課題である。中国が発展するためには、世界の発展の潮流に順応しなければならない。世界的眼光を樹立し、時代の脈拍を把握するためには、世界の風雲変化を見極め、森羅万象の中から本質、特に長期的趨勢を発見する必要がある。」(要注意点) 2014年と2018年を比較すると、強調点が逆転している(2018年の方が評価がより厳しくなっている)。
- **国際的パラダイムの発展変化の複雑性を評価するとともに、世界多極化の趨勢には変化がないことを見て取ること。
- **世界経済調整の曲折性を評価するとともに、経済グローバル化のプロセスには変化がないことを見て取ること。
- **国際矛盾・闘争の尖鋭性を評価するとともに、平和と発展という時代の主題は変化がないことを見て取ること。
- **国際秩序の争いの長期性を評価するとともに、国際システムの変革の方向性は変化がないことを見て取ること。
- **周辺環境の不確定性を評価するとともに、アジア太平洋地域の総体的な繁栄安定の態勢は変化がないことを見て取ること。
- * 指導思想:「今日の世界は、変革の世界、チャンスと挑戦が絶えることがない世界、国際システムと国際秩序の大調整の世界、パワー・バランスが平和と発展の方向に変化する世界である。」
- **歴史的法則という望遠鏡を通して細心に注意して観察すること。
- **中国の発展は引き続き大いなる戦略的チャンスの時代にあるという総合的判断。
- **内外両市場、内外両資源、内外両ルールを統括的に考慮し、総合的に運用すること。
- * 基本原則:「中国の特色ある外交を持たなければならない。実践経験を総括する基礎の上で、対外工作の理念を豊富にし、発展させ、中国の対外工作に鮮明な特色、風格、気概を持たせるべきである。」
- **中国共産党の領導と中国の特色ある社会主義を堅持し、中国の発展道路、文化伝統、価値観を堅持すること。
- **独立自主及び平和外交の方針を堅持し、国家及び民族の発展を基点として、確固として平和発展の道を歩むとともに、正当な權益を決して放棄せず、国家の核心的利益を決して犠牲にしないこと。
- **国際関係の民主化、平和共存5原則、大小・強弱・貧富に係わらず国家は国際社会の平等な成員であること、世界の命運は各国人民が共同で掌握するべきことを堅持し、国際の公平・正義を擁護し、特に、広範な途上国の立場に立つこと。
- * 戦略目標:「合作共赢を堅持し、合作共赢を核心とする新型国際関係の樹立を推進するべきであり、互利共贏の開放戦略を堅持し、合作共赢の理念を政治・経済・安全・文化等の対外合作の各方面に体現させていくべきである。」
- **正しい義利観を堅持して義利兼顧を成し遂げ、信義を語り、情義を重んじ、正義を発揚し、道義を樹立すること。

- **他国の内政に干渉せず、各国人民が発展道路及び社会制度を自ら選択することを尊重し、対話協商を通じて平和的な方法で国家間の対立・紛争を解決することを堅持し、武力・武力の威嚇に訴えることに反対すること。
- ***主要任務**:「今後、対外工作においては総体国家安全観を貫徹実行し、中国の特色ある社会主義の道路・理論・制度に対する全国人民の自信を増強するべきである。」
- **チャイナ・ドリームに対する世界各国の理解と支持を取り付けること。チャイナ・ドリームとは平和・発展・合作・共贏のドリームであり、中国が追求するのは中国人民の福祉であるとともに、各国人民共同の福祉でもある。
- **領土主権と海洋権益を断固として擁護し、国家統一を擁護し、領土島嶼紛争問題を適切に処理すること。
- **発展のチャンスとスペースを擁護し、経貿技術の互利合作を通じて互利合作ネットワークの形成に努力すること。
- **非同盟原則の下で広く交わり、グローバルなパートナーシップのネットワークを形成すること。
- **ソフト・パワーを高め、中国の物語を語り、対外宣伝に努めること。
- ***対外工作**:「対外工作に当たっては党の集中統一領導を強化し、対外工作のシステム・メカニズムを改革改善し、各分野各部門各地方の対外工作の統括協調を強化し、戦略的インプットを増大し、外事管理を規範化し、外事幹部の隊伍建設を強化し、対外工作の新局面に堅固な保障を提供しなければならない。」

<「**合作共贏(ウィン・ウィン)**」>

○**習近平外交思想の最大最重要の本質**

- ***ゼロ・サムのパワー・ポリティクス思想の根本的否定**
- ***国際関係のあり方に関する革命的思想提起**

○(参考)陳向陽解説 (陳向陽:中国現代国際関係研究院危機管理研究センター主任兼世界政治所副所長)「**創新を開拓し、世界を先導する中国の特色ある大国外交**」(2017年10月6日 中国網)

- *「**本質的特徴**」
 - **「**一つの理念**」:「**合作共贏**」を核心とする新型国際関係の建設推進
 - **「**一つの観念**」:「**正しい義利観**」(☆)(義利兼顧;講信義・重情義・揚正義・樹道義)
 - **「**三つの堅持**」:①**共産党領導・中国特色社会主義**、②**独立自主平和外交**、③**国際関係民主化**
(☆)「**義**」とは、儒教における「至高無上の道義」(“事之所宜也”)。「**利**」とは、“人之用曰利”転じて「物質的利益」。「**義利観**」とは、“義と利の関係をいかに見るか”という倫理的価値観を指す言葉。孔子:“君子喻于義 小人喻于利”(《論語・里仁》)
「**正しい義利観**」:中国の伝統的美徳の中でも、「**正しい義利観**」は極めて高い地位を占め、中国古代人民は商売を営む上での究極的目標として重視した。中国伝統思想を重視する習近平ならではの今日的意味付与の一例。
- *「**外交理念**」:「**人類運命共同体**」(☆)を核心とする理念。
(☆)提起と展開:習近平・中国は本気で提唱しているのであり、宣伝材料ではないことを理解するために。理念についての詳細は後述。
 - **2012年、18回党大会報告「**中国の利益を追求する時に、他国の合理的な関心も考慮する**」として、はじめて「**人類運命共同体意識**」を提起。
 - **2015年、ボアオ・アジアフォーラム「**アジア運命共同体への邁進を通じて人類運命共同体建設を推進しよう**」と提起。邁進に当たっての「**4つの堅持**」:相互尊重・平等相待、**合作共贏・共同発展**、**共同・総合・合作・持続可能の安全実現**、異なる文明の**兼容併蓄・交流互鑒**。
 - **2015年9月、国連本部重要講話「**今日の世界では各国が相互依存・休戚与共**。国連憲章の精神と原則を継承・発揚して、**合作共贏を核心とする新型国際関係を構築し、人類運命共同体を建設しよう**。」

- **2017年1月、国連ジュネーブ本部スピーチ「人類運命共同体を共同で構築しよう」(2021年1月1日『求是』で全文発表)
- **2017年10月19回党大会報告:平和発展の道路を堅持し、人類運命共同体構築を推進すること、それを通じてグローバル・ガバナンス・システムの変革を促進することを提起。
- **2018年3月、憲法前文修正:「各国との外交関係及び経済・文化の交流を発展」→「各国との外交関係及び経済・文化交流を発展させ、人類運命共同体構築を推進」(←「平和的発展の道堅持」は17回、18回、19回党大会報告で言及し、中国共産党章程に規定)
- **2019年10月、19期4中全回提起:独立自主の平和外交政策を堅持し改善し、人類運命共同体構築を推進する。

2. 平和外交

○中国の平和外交の歴史的展開

- *「人類運命共同体に向かって」(求是網 2019年11月17日)
「中国共産党の平和的発展の道」(人民日報 2021年6月7日)
- 1949年の新中国建国綱領《中国人民政治協商会議共同綱領》:「中華人民共和国の外交政策の原則は、自国の独立、自由及び領土主権保全のため、国際的持久的平和と各国人民間の友好合作を擁護し、帝国主義の侵略政策と戦争政策に反対することである。」すなわち、**新中国の外交基本原則は、一に独立、二に平和**であった。
- 1953年末、周恩来はインド代表団と会談した時に、はじめて平和共存5原則を提起し、この原則は中国が国際関係を処理する際の基本原則かつ指導思想となった。1954年、中国は5大国の一つという立場でジュネーブ会議に参加し、インドシナ停戦を積極的に斡旋し、実現した。ジュネーブ会議は、国際紛争が平和協商によって解決できることを証明した。
- 1954年10月、毛沢東はインドのネール首相と会見した際に次のように述べた。我々は「少なくとも数十年の平和が必要だ。国内の生産を開発し、人民の生活を改善するためだ。戦争はしたくない。」「我々は平和な環境を必要としており、時間は可能な限り長くしたいし、それは可能だ。アメリカが平和条約締結を願うのであれば、いくら長いものでもいい。50年でも足りないなら100年でも良い。もともとアメリカ次第だが。」「共同で戦争防止に努力し、持久的な平和を勝ち取るべきだ。」すなわち、新中国の外交は一貫して、中国の遅れを取り戻し、生産を発展させるため、平和な環境を勝ち取ることを大前提に置いていた。
- 1960年5月27日、訪中したイギリスのモンゴメリー元帥は毛沢東に対し、50年後の中国の命運如何、世界で最強最大の国家となっている可能性があるが、と質問した。毛沢東は、モンゴメリーの質問の趣旨が、その時は侵略するのではないか、ということにあるだろうと返した上で、次のように答えた。「外国は外国人が住んでいるところであり、他人は行くことができないし、無理矢理入り込んでいく権利も理由もない」、「無理矢理入り込もうとするならば追い出されるだろう。それが歴史の教訓だ」、「仮に我々が他人の土地を占領したとすれば、我々は侵略者だ。実は、我々は被侵略者だ。アメリカが台湾を占領している。」これが中国領導者のホンネだ。中国はそう言ってきたし、実際にそうしてきた。
- 独立自主の平和外交理念に従い、中国は第三世界諸国と同じ立場に立ち、世界平和を守る力を広げること努力してきた。
 - *1971年10月、第26回国連総会において、AALA諸国の支持のもと、中国は国連の合法的地位を回復した。
 - *1970年代、中国は中米関係正常化と中日国交正常化を実現し、ますます多くの国々と外交関係を樹立して、その独立自主の平和外交政策はますます活動のスペースを広げてきた。
- 1982年9月、鄧小平は12回党大会開幕の言葉の中で次のように述べた。「社会主義現代化建設を強化し、台湾を含む祖国統一を実現し、覇権主義に反対し、世界平和を擁護することは、80年代の3大任務である。3大任務中の核心は経済建設であり、それは国際国内問題を解決する基礎である。」「中国人民は他の国々及びその人民との友好及び合作を大切にするし、それにも増して長期の奮闘で獲得してきた独立自主の権利を大切にする。いかなる外国も、中国を自分の従属国にすることを望むべ

きではなく、中国が自国の利益を損なう結果をのみ込むことを望むべきではない。」

－1982年12月、第5期全人代第5回会議は、独立自主對外政策堅持及び平和共存5原則堅持を憲法に規定した。

○平和及び戦争に関する判断の変遷

*「人類運命共同体に向かって」(求是網 2019年11月17日)

－80年代:国際国内情勢に重要な変化が現れた。国際的には、平和と発展が世界人民の声となり、両超大国は世界大戦を發動する能力はなくなり、中国等の第三世界諸国が世界平和を維持する力となった。中国はアメリカと外交関係を樹立し、西側諸国との関係も改善し、ソ連とも関係改善を進めた。科学技術の新たな革命が進み、世界競争で占める地位が突出するとともに、世界各国人民及び平和愛好諸国はすべて世界の平和と安寧を渴望するに至った。国内的には、11期3中全会が工作の中心を経済建設におき、改革開放という重要な政策決定を行った。この変化の観察に基づき、鄧小平は、平和力は戦争力よりも大きく、世界大戦は短期的に勃発しないと結論づけ、平和と発展が世界の2大課題であるとする重要な判断を下した。この判断に基づき、中国の對外政策も改革開放に含むという方向に調整され、外交の工作重点は、改革開放への服務、全方位外交、世界各国との友好関係の全面的発展、改革開放及び社会主義現代化建設のために有利な戦略態勢及び良好な外部環境を造出することに転換した。

－90年代:ソ連解体と東欧激変によって2極パラダイムが消滅し、ポスト冷戦の国際環境には重大な変化が発生した。江沢民を中心とする党中央は、世界の多極化と経済グローバル化の趨勢を正確に把握し、以下のように判断を下した。すなわち、世界の不安定要素は増大しているが、平和と発展という時代の主題は変化しておらず、総体平和・局部戦争、総体緩和・局部緊張、総体安定・局部混乱がこの時期における国際情勢展開の基本態勢である。この態勢下で中国は、改革開放以来の外交工作の基本方針を堅持し、中国外交の根本目標は改革開放及び現代化建設のため及び祖国統一のために良好な国際環境を創造することである、と明確にした。具体的には、大国関係を積極的に推進して主要大国との間で新型大国関係を樹立し、周辺諸国との善隣友好関係を積極的に発展させ、公正かつ合理的な国際政治経済新秩序の建設を推進し、全方位で多層的な對外関係新パラダイムの樹立を進めた。

－2001年

*6月、上海協力機構成立。「互信、互利、平等、協商、多様な文明の尊重、共同発展の追求」の「上海精神」は、平和、発展及び合作に順応するという時代の潮流を旗幟鮮明にし、新型地域協力関係の発展、平和と安定の維持、発展繁栄の促進に対してモデルを樹立した。

*12月11日、15年にわたる交渉を経て、中国はWTOに加盟した。WTO加盟は改革開放の新起点であり、平和及び発展という事業に対してより有利な外部経済合作環境を創造した。

－16回党大会(2002年11月)以後の情勢の変化に対し、胡錦濤を総書記とする党中央は中国と世界との関係が緊密になる趨勢を正確に把握し、国内国際両大局を統括し、外交工作の総体布石を深化させ、科学発展・和平発展・合作発展を掲げ、平和発展の道に沿って総体安定・総体均衡・合作共贏の大国関係構築に努め、マルチの外交手段とマルチのメカニズムを活用してグローバル・ガヴァナンス問題に関する主張を提起し、和諧世界の建設を推進し、世界平和擁護、共同発展に力を尽くし、国際関係における中国の影響力を拡大した。2008年12月以後、安保理関連決議とソマリア臨時政府の要請に基づき、中国海軍はアデン湾で航行護衛任務に従事してきた。

○習近平の平和思想

*「人類運命共同体に向かって」(求是網 2019年11月17日)

「習近平思想のグローバル・ガヴァナンス推進意義」(中国網 2021年1月29日)

－2013年1月28日、18期中共中央政治局第3回集体学習は「平和発展の道を確認として歩む」ことを主題とした。習近平は次のように指摘した。すなわち中国は、平和共存5原則を提起・堅持し、独立自主の平和外交を確立・遂行し、永遠に覇を称えず、拡張主義を行わないという厳粛なコミットを行い、一貫して世界平和擁護の力であることを強調してきたし、今後も堅持し、永久に動揺することはあり得ない。独立自主の平和外交政策を行い平和的発展の道を歩むことは、その場しのぎの策でも外交辞令で

もなく、中国人民が歴史、現実、未来に対する客観的判断に基づいて出した結論であり、**思想的自信と実践的自覚の有機的統一**である。**この自信と自覚は、①中華文明の深層、②中国の発展実現の目標及び条件に対する認識、③世界の発展の大勢に対する把握、に基づくものである。**18 回党大会以来、習近平は以上の思想をくり返し世界に向かって発信してきた。

— 今日、世界は 100 年来なかった大変局を経験している。経済グローバル化、新科学技術革命、途上諸国台頭、グローバル・ガバナンス・システム再編、国際的パラダイムの激変等々。**平和と発展は今も時代の主題**であり、その大勢は不可逆であるし、**合作と共贏は世界各国発展の趨勢**である。同時に、グローバルな発展には構造的矛盾が突出し、覇権主義と強権政治は依然として存在し、保護主義と一国主義が不断に台頭し、戦乱とテロ、飢餓とパンデミックは各地で起こり、伝統的非伝統的な安全上の問題が複雑に交錯し、人類社会はまたもや十字路にさしかかっている。

世界はどうなってしまったのか。人類はどこに向かって進むのか。平和発展の道は如何に進むべきか。合作か対抗か。開放か鎖国か。互利共贏かゼロ・サムか。習近平は 2013 年 3 月 23 日にモスクワ国際関係学院で行った演説で、世界に向けて回答を出した。**「時代とともに前進するためには、冷戦思考、ゼロ・サムの古い枠組みに留まっていたはならない。」****「相互依存が空前の勢いで深まっているこの世界、人類が地球村で生活し、歴史と現実が交叉する同一時空で生活している中で、この世界はますますあなたの中に私があり、私の中にあなたがいる運命共同体になっている。」**

— **人類運命共同体思想・理念**

* 核心的含意: **戦争ではなく平和、貧困ではなく発展、対抗ではなく合作、単贏ではなく共贏。**

* 具体化①: **「一带一路」(2013 年)**

**2013 年 9 月、カザフスタン・ナザルバエフ大学での講演の中で新構想を提起。「ユーラシア諸国の関係を緊密にし、合作を深め、発展空間を広げるため、「シルクロード経済帯」という新たな合作モデルを創設し、共同で建設したらどうか。」

**2013 年 10 月、インドネシア訪問中に類似の構想を提起。「東南アジア地域は昔から「海上シルクロード」の重要ルートであり、中国はASEAN諸国と海上合作を強化し、海洋合作パートナーシップを発展させ、共同で 21 世紀「海上シルクロード」を建設したい。」

**2016 年 1 月、アジアインフラ投資銀行設立。

**2017 年&2019 年、「一带一路」国際合作サミット・フォーラム。共商・共建・共享の原則を堅持し、開放・緑色・廉潔の理念に基づき、高標準・恵民生・可持続の目標を追求して、「一带一路」合作を推進することとした。一带一路は今や現実となり、沿線諸国の経済発展のみならず、世界経済成長をも促進しつつある。

* 具体化②: **「全球発展倡議(Global Development Initiative GDI)」(2021 年)**

**2015 年 9 月、国連発展サミットで「公平・開放・全面・創新を核心とする新発展理念を詳述、グローバル発展に中国理念を提供。

**2016 年 9 月、G20杭州サミットで中国が推進して発展を主要議題に置き、国連 2030 持続可能発展議題の実行をコミットし、行動計画を制定。

**2020 年国連成立 75 周年サミットで、習近平「世界はどうなったのか、我々はどうするのか」とする時代の問を発出。

**2021 年 9 月、国連総会にオン・ラインで出席、「全球発展倡議(Global Development Initiative GDI)」と「グローバル発展運命共同体」構築を提起。

**GDI核心内容:「6 つの堅持」

***「発展優先堅持」: より平等で均衡のとれたグローバル発展パートナーシップ構築

***「以人民為中心堅持」: 人々の幸福感・獲得感・安全観の不断な増強

***「普惠包容堅持」: 国家間及び国家内部の発展不均衡問題を解決

***「創新新驅動堅持」: ポスト・コロナ期の経済成長可能性を掘り起こし、手を携えて成長実現

***「人と自然の和解共生堅持」: グローバルな環境ガバナンスを改善し、気候変動に積極的に対応し、人と自然の生命共同体を構築

***「行動志向堅持」: 発展資源投入を増やし、グローバル発展運命共同体を構築

— **グローバル・ガバナンス: 近代以来の国際社会の安全思考様式を打破して「新安全観」を提起。「国强**

必覇」という旧思考を打破し、西側の排他的安全観を超越し、世界の発展及び人類の未来に対して進むべき正しい方向を指し示した。

- * 普遍的包容の国家安全理念を受け継ぎ、人類命運共同体構築を推進。中国の国家的安全と世界の平和は密接不可分である。習近平は総体国家安全観を提起し、自身の安全と共同の安全の統一を強調、冷戦思考、ゼロ・サムという古い理念を放棄し、互尊互諒・互利共贏の合作観に基づいて人類命運共同体構築を推進することを提唱。
- * 世界平和を擁護し、共同发展を促進するという原則に従って新型国際関係を構築。
- * 共同・総合・合作・持続可能の新安全観を提起し、公平正義・共建共享の安全パラダイムを創造。

3. 習近平外交思想におけるマルクス主義と伝統文化

○マルクス主義

- * 「習近平外交思想におけるマルクス主義哲学思惟」(党建網—《党建》雑誌 2019年2月21日)
- 「習近平外交思想には歴史唯物主義と弁証唯物主義の立場・観点・方法が貫かれている。」
- 「歴史の進歩の大勢を把握し、人類運命共同体構築推進を堅持」
- * 人類運命共同体構築の主張は、歴史唯物主義思惟を内包し、歴史発展の趨勢と様々な社会形態との間の関係を明らかにしている。政治の安全、経済の発展、文化の繁栄、生態の優美の各分野の間には密接な関係がある。政治の安全は前提であり、平和で安定した環境なくしては何事も始まらない。経済の発展はカギであり、活力があり、持続可能な経済的繁栄は各国が合作共贏し、人民が安居楽業するための物質的基礎である。文明生態は保障であり、良性的文化的互動及び良好な生態文明は人類の幸福な生活のための条件を創造する。習近平によれば、以上のことは次のように表現される。
 - **対話協商を堅持し、持久的平和の世界を建設する。
 - **共建共享を堅持し、普遍的安全の世界を建設する。
 - **合作共贏を堅持し、共同的繁栄の世界を建設する。
 - **交流互鑒を堅持し、開放的包容の世界を建設する。
 - **綠色低炭を堅持し、清潔で美しい世界を建設する。
- * 人類運命共同体構築の主張は、歴史唯物主義の角度からの人類社会発展の歴史法則に対する認識を反映している。
 - **生産力の不断の発展と科学技術の飛躍的進歩に従い、国家・地域間の関係は地理的にも程度においてもますます相互依存を深めており、人類社会は地域・民族・言語・文化等の違いという制約を突破して、マルクスのいう「世界歴史」の時代に入っている。
 - **今日の世界においては、多極化の趨勢はますます顕著であり、どの国家といえども恫喝によって世界を統治することは不可能になっている。對抗衝突、競争対決の冷戦時代はもはや過ぎ去り、ゼロ・サム思惟はもはや新たな発展に適応しない。伝統的な軍事脅威のエスカレーションにせよ、テロリズムの襲撃にせよ、気候変動等の非伝統的脅威にせよ、国家が単独で対処することはもはや不可能であり、人類が直面する共同の挑戦がますます増えている。
 - **このような情勢のもとでは、自国の殻に閉じこもり、自己だけの利益に執着する一国主義ではなく、より高い視野に立って人類が目指すべき理想・目標を指し示すことが求められている。
 - **習近平の「人類運命共同体構築推進堅持」の主張は正に正解を与えている。
- 「弁証唯物主義の精神を堅持して、平和発展の道を歩む。唯物弁証法は、人々が客観世界を認識し、改造する際に、現象を通して本質を見極め、事物の内在的関係を認識し、事物の発展変化のうちに真正の法則を把握することを要求する。」
- * 平和発展の道を歩むことを堅持するに当たっては、相互尊重、合作共贏を基礎とすることが求められる。一方において、独立自主の平和外交政策を実行し、各国人民が発展の道を自主的に選択する権利を尊重することを堅持する。もう一方において、グローバル・パートナーシップを発展して各国との利益の交叉点を拡大し、対外開放の基本政策を堅持して開国して建設を行い、文化面では相互包容、相互借鑒を堅持する。

* 平和発展の道を歩むことを堅持するという提起は、①錯綜し複雑な国際情勢の中から主要矛盾及び矛盾の主要面を把握し、②国際情勢が変転極まりなく、世界のパラダイムが不斷に変化するもとも、平和と発展が依然として時代の主題であり、大勢であることを認識することを可能にする。平和は発展の前提・基礎であり、発展は平和の動力・保障である。両者はいずれも欠くことができず、互いの存在を条件とする。平和を離れて発展を論じても、その発展は画餅に終わる。発展を捨てて平和を論じても、その平和は幻に終わる。

－「科学的実践論によって対外開放の新パラダイムを創出する。実践は認識を決定する。実践は認識の源泉であるに留まらず、認識の目的でもある。同時に、認識は実践に対して反作用する。人類社会は、実践－認識－再実践－再認識のプロセスによって不斷に発展する。」

**中国は、政治的安定、経済的発展、社会的進歩、文化的繁栄、環境的保護等の分野での成功した実践において世界に対して中国の方案と智慧を貢献しただけではなく、世界経済及び各国発展が困難に陥っていた2013年に「一帯一路」を提起した。世界の140以上の国家・地域と80以上の国際組織が「一帯一路」建設を支持し、これに参加している。

**中国はまた、①国家・地域の特徴に応じて、(i)総体安定・均衡発展の大国関係の枠組みの構築、(ii)親誠恵容の理念、与隣為善・為隣為伴の周辺外交方針に基づく周辺諸国との関係深化、(iii)正しい義利観及び真実信誠の理念を堅持した途上諸国との団結合作強化、に努力し、②マルチの場におけるグローバル・ガヴァナンスに積極的に参与し、③政党交流合作を繰り広げ、④公共外交の役割を発揮することで、グローバルな「友人圏」を作ることに努力している。

○古典引用

* 「習近平の「古典」引用による中国特色外交」(中央テレビ 2018年11月27日)

習近平は、2014年11月の中央外事工作会議において中国外交に関する頂層設計を行い、中国の対外工作においては鮮明な中国の特色・風格・気概を持つべきであると指摘した。習近平は国際舞台で中国の主張・提案を行うに際しても、しばしば古典を引用する。

－「グローバル・ガヴァナンス」

* 「単則易折 衆則難摧」《北史・吐谷浑传》:2017年1月18日、国連ジュネーブ本部での演説:「この世界には絶対的安全の桃源郷はなく、一国の安全は他国の困難の上には築けず、他国にとっての脅威は自国への挑戦にもなり得る。隣の家に問題が出たら、自分の家の垣根を囲うことだけを考えていてはダメで、手伝いに行ってやるべきだ。“単則易折 衆則難摧” 各国は、共同・総合・合作・持続可能な安全観を樹立するべきである。」

* 「大道之行也 天下為公」《礼記・礼運篇》:2015年9月28日、国連総会一般弁論時の講話「“大道之行也 天下為公” 平和・発展・公平・正義・民主・自由は全人類共同の価値であり、国連憲章の崇高な目標でもある。目標はいまだ完成しておらず、我々は引き続き努力するべきだ。今日の世界は各国が相互依存、休戚与共である。我々は国連憲章の精神と原則を継承発揚して、合作共贏を核とする新型国際関係を構築し、人類運命共同体を作り出そう。」

－「合作共贏」

* 「積土而為山 積水而為海」《荀子・儒效》:2018年4月10日、ポーアオ・アジア・フォーラム開幕式基調演説「“積土而為山 積水而為海” 幸福な未来は自然に出現するものではなく、成功は勇毅篤行の人のものである。開放共贏を堅持し、果敢に変革創新し、人類運命共同体構築の目標に向かって邁進し、アジアと世界の未来を共に創造しよう。」

* 「合則強 孤則弱」《管子》:2014年6月28日、平和共存5原則発表60周年記念大会講話「“合則強 孤則弱” 合作共贏は各国が国際問題を処理する上での基本政策となるべきである。合作共贏は普遍的に適用できる原則であり、経済分野のみならず、政治、安全、文化等の分野にも適用できる。」

－「開放包容」

* 「万物并育而不相害 道并行而不相悖」《礼記・中庸》:2014年6月28日、平和共存5原則発表60周年記念大会講話「“万物并育而不相害 道并行而不相悖” 我々は文明の多様性を尊重し、異なる文明間の交流対話・平和共存・和諧共生を推進するべきであり、唯我独尊、他の文明や民族を貶めることがあってはならない。人類の歴史は、単一文明による天下統一を試みるのは幻想に過ぎない

ことを我々に語っている。」

- *「海納百川 有容乃大」晋代袁宏《三国名臣序赞》+《尚书·君陈》→林則徐:2013年4月7日ボーアオ・アジア・フォーラム基調演説「“海納百川 有容乃大” 我々は、各国が自主的に社会制度と発展の道を選択するのを尊重し、世界の多様性及び各国の創意性を発展の活力と動力に転化するべきである。開放精神を堅持し、他の地域の発展の経験に学び、地域協力を推進するべきである。」

ー「平和的發展」

- *「強不執弱 富不侮貧」《墨子・兼愛中》:2015年11月7日、シンガポール国立大学講演「平和發展思想は中華文化の内在的遺伝子であり、講信修睦、協和万邦は中国の周辺外交の基本である。中国人民は平和の尊さを知り尽くしており、平和擁護の決意と願望を決して放棄せず、自らがかつて経験した苦難を他人に強いることもあり得ない。国強必覇は歴史の法則ではない。中国は古くから“強不執弱 富不侮貧”を唱えており、“国雖大 好戦必亡”の道理を知り尽くしている。」

ー「中国の役割」

- *「落其实思其樹 飲其流懷其源」北周时期庾信《郊庙歌辞·徵调曲》:2017年1月18日、国連ジュネーヴ本部講演「共同發展促進という中国の決意は不変である。中国の古い言葉に“落其实思其樹 飲其流懷其源”という。中国の發展は国際社会のお陰であり、各国が中国發展に「便乘」することを歓迎する。」
- *「立天下之正位 行天下之大道」孟子《孟子・滕文公下》:2016年1月21日、アラブ諸国連盟本部講演「中国古代の聖賢である孟子は“立天下之正位 行天下之大道”と言った。注五位宇野対中東政策は物事の是非曲直に立脚することを堅持しており、中東人民の根本的利益から出發することを堅持している。我々は中東において代理人を探すことはなく、平和を勧奨し交渉を促進する。勢力範囲を求めず、皆が「一帯一路」朋友圈に加わることを推進する。「真空」を埋めることを謀らず、互利共贏の合作パートナーネットワークを組織する。」

○マルクス主義と伝統文化:「マルクス主義の中国化」

- *「マルクス主義と中国伝統文化の結合に関する歴史的経験」(光明日報 2021年5月18日 筆者:中央党校教授・許全興)
- *「マルクス主義の中国化における“2つの結合”の理論創新論理」(光明日報 2021年12月29日 筆者:中央党校教授・辛鳴)

ーマルクス主義の受容:亡国の危機に瀕し、中国伝統思想が中国を救うことができないことを認識し、ロシア10月革命の影響の下でマルクス・レーニン主義という思想的武器を獲得。

- *マルクス主義:①西欧で生まれたが、世界史の産物。②世界プロレタリア革命運動の経験及び人類文明の成果に対する総括・概括。客観法則を反映した真理は洋の東西を問わない。
- *中国共産党:マルクス主義は科学的な世界観・方法論・価値観であり、その生命力は各国の現実と結合し、人民大衆が掌握するところにあることを認識。

ーマルクス主義の中国化:中国伝統思想が中国を救えないということは、中国伝統文化を放棄してよいということを意味するものではない。マルクス主義が中国に根付く上では、中国の実際と結合するだけではなく、中国の歴史・文化と結合する必要がある。5000年余の思想文化はマルクス主義が中国で根を下ろし、開花し、結実することに肥沃な土壌を提供した。

- *毛沢東(1938年9月第6期6中全回発言):「中国民族には数千年の歴史があり、貴重な内容がある。我々はマルクス主義的歴史主義者であり、歴史を切り離すべきではない。孔子から孫文までを総括し、貴重な遺産を継承するべきだ。」マルクス主義を中国化することは「全党が解決すべき問題」と提起。「マルクス主義の中国化」という命題の提起は、中国革命の経験に対する総括であると同時に、新文化運動に対する総括でもあった。
- *中共中央「コミンテルン解散提案に関する決定」(1943年):「党は我が民族の文化・思想・道德の優秀な伝統の継承者であり、すべての優秀な伝統を自らのものと見なし、さらに発揚させていく。党の近年の整風運動は、マルクス・レーニン主義を中国の歴史・文化と結合させようとするものである。」
- *「中国的形態・風格・気概」:「マルクス主義の基本原則と中国の伝統文化を結合させることにより、中国化したマルクス主義に中国的な形態・風格・気概を持たせることで、5000余年にわたって蓄積され

てきた中国的な情感・意志・思惟等をマルクス主義の中に体现させるべきである。自己の文化・伝統を離れたマルクス主義の中国化は不可能である。」

**マルクス主義と中華の伝統・文化は相通している:「マルクス主義が中国人民に受け入れられ、中国大地に根付き、開花したのは偶然ではなく、数千年にわたる歴史・文化及び人民の日常的価値観と通じるものがあつた。マルクスは中国古代の農民起義が提起した社会主義的意味合いを備えた革命スローガンに鋭く注目していた。彼曰く、「中国社会主义の欧州社会主义におけるは、中国哲学のヘーゲル哲学におけるがごとし。」と。」(19期4中全回第2回全体会議での習近平発言)

**中華の伝統文化は中華民族のもっとも根本的な精神的遺伝子を内包しており、すでに中国文化の遺伝子となって中国人の内心に根付いており、中国人の行動様式を知らず知らずのうちに感化し、影響している。また、中国の伝統文化は「過去形」ではなく「現在進行形」である。マルクス主義の基本原則を中華の伝統文化を結合させるに当たっては、創造的転化、創新的発展を実現し、中華民族の基本的な文化遺伝子を現代の文化に適應させ、現代社会と協調させることにより、時空を越え、国家を超越し、恒久的魅力に満ちた、現代的価値を備えた文化精神を發揚させるのである。

**5000 余年にわたって続いてきた文化精神が浸潤することにより、中国化されたマルクス主義は中国社会の思想となり、中国人民の思想となる。毛沢東は「矛盾」「実践」「知行合一」「实事求是」等の中国文化を創造的に運用した。鄧小平は《礼記・礼運》の「小康」概念を用いて「中国式現代化」を説明した。習近平は「中華民族の偉大な復興というチャイナ・ドリーム」という中国文化的色彩の濃厚な表現を用いて中国の特色ある社会主義の歴史的使命と戦略的展望を示した。これら一連の結びつきにより、マルクス主義の中国化に身近な文化的雰囲気と親和力が作り出された。中華の伝統文化の豊富な哲学思想、人文精神、教化思想、道德理念等は、創造的な転化及び創新的な発展を経て、習近平新時代中国特色社会主義思想に内在化され、マルクス主義の中国化という飛躍にとってより堅実な文化的基礎及び文化的支柱を得るのみならず、21 世紀マルクス主義に「飛躍」的な創新と発展をもたらしている。

*「マルクス主義の中国化＝創造的なマルクス主義」

**マルクス主義の指導を堅持することはマルクス主義の中国化の前提であり、マルクス主義を絶対に見失ってはならず、見失うことは魂を失い、根本を喪失することである。

**「2 つの結合」の根本はマルクス主義の基本原則との結合であり、これが論理の前提である。マルクス主義の基本原則とは、唯物史観及び唯物弁証法、並びに歴史唯物主義及び弁証唯物主義によって明らかにされた自然、社会及び思惟認識における各分野における客観的法則であり、人類社会発展の客観的法則であり、資本主義が必然的に滅亡し、社会主義・共産主義が必然的に勝利するという歴史的結論である。

**根本はマルクス主義の立場・観点・方法を貫き、マルクス主義の立場・観点・方法を用いて中国の具体的現実に対する認識・判断及び中華の伝統文化の傳承・發揚を統率することである。

—中国伝統文化の創造的転化・発展:習近平は中国古典を常に引用し、中国の智慧・民族精神をマルクス主義に溶け込ませることで、マルクス主義の中国化・時代化・大衆化を推進してきた。

*中国伝統文化の哲学思想・人文精神・教化思想・道德理念等は、世界を認識・改造する上での有益なインスピレーション、治国理政に有益な啓示、道德建設に有益な啓発を提供する。

—伝統的文化遺産の取捨選択:いかなる民族文化も特定の時代の歴史的産物であり、複雑な矛盾体であり、文化的成果、優良な伝統であっても歴史的條件による制約を免れない。したがって、中国の優秀な伝統文化を肯定すると同時に、存在する問題を直視し、歴史唯物主義に基づいて具体的に分析しなければならない。マルクス主義の中国化のプロセスの中で伝統文化の消極的要素が混じり込むことを警戒しなければならない。

—毛沢東思想・鄧小平理論・習近平新時代中国特色社会主義思想

*毛沢東思想

**農村が都市を包圍し、武器で政權を奪取する革命の道;敵対矛盾と人民内部の矛盾の區別;社会主義建設における 10 大關係;中国の国情に適した工業化

**マルクス主義の中国化の第一次歴史的飛躍

* 鄧小平理論

** 党の執政能力と市場経済コントロール能力の向上; 経済建設中心を堅持すると共に経済社会発展の不均衡問題回避; 経済高度成長と同時に発展の公平・正義・持続可能性の実現; 中国社会主义の発展道路・発展段階・根本任務・発展動力・発展戦略・政治保証等の基本問題に対する科学的回答

** マルクス主義の中国化の新たな飛躍

* 習近平新時代中国特色社会主义思想

** 「五位一体」総体布石の統一的推進; 「四つの全面」戦略布石の協調推進; いかなる中国の特色ある社会主义を建設し、それをどのように建設するか、どのような長期執政のマルクス主義政党を建設し、それをどのように建設するかという時代的課題に対する科学的回答; 独創的な治国理政の新理念・新思想・新戦略の提起

** マルクス主義の中国化の新たな飛躍; 現代マルクス主義、21世紀マルクス主義の新境地開拓